

会員の活動報告

(2003年11月～2005年10月)

伊川 徹

- ・知識偏重の語学教育こそ大学の語学教育だ！ (*RENCONTRES 18*, Rencontres Pédagogiques du Kansai, 2004年7月)
- ・コミュニケーションは手段であって、目的ではない？ (*RENCONTRES 19*, Rencontres Pédagogiques du Kansai, 2005年7月)
- ・知識偏重の語学教育こそ大学の語学教育だ！ (第18回関西フランス語教育研究会口頭発表, 於大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ, 2004年3月)
- ・コミュニケーションは手段であって、目的ではない？ (第19回関西フランス語教育研究会口頭発表, 於大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ, 2005年3月)
- ・日仏文化講座のプロデュース (神戸市教育委員会・神戸国際協力交流センター後援の Cercle Académique Français (代表 長谷川富子) を設立, 神戸国際会館にて毎月第2・第4火曜日に開講中, 2005年4月)
- ・知られざるフランスとフランス人 (2005年度大学連携ひょうご講座春期学外科目, 於兵庫県立神戸学習プラザ, 2005年6月)

伊藤誠宏

- ・17世紀フランス文典にみられる genre des noms (I) — Oudin の文典を中心にして — (関西大学『文学論集』第54巻第4号, 2005年3月)
- ・17世紀フランス文典にみられる genre des noms (II) — Oudin の文典を中心にして — (関西大学『文学論集』第55巻第1号, 2005年7月)
- ・色彩の魔力——文化史・美学・心理学的アプローチ (共著, 明石書店, 2005年4月)

大久保朝憲

- ・論評 改革主義的言語学の可能性：フェミニズム言語学とフランス語 (『フランス語学研究』39号, 59-64 (日本フランス語学会) 2005年6月)
- ・Discours tristes et discours extrémistes — polyphonie entre sujet et prédicat (*Dialogisme et nomination : Actes du IIIe colloque jeunes chercheurs 7 mars et 8 mars*)

2003, Collection Langue et praxis, Publications Montpellier 3 Université Paul-Valéry,
2004年12月)

近江康則

- Les Trésors du Musée Sankôkan (26) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.53, 2003年11月)
- Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (27) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.54, 2004年2月)
- Les Trésors du Musée Sankôkan (27) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.55, 2004年5月)
- Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (28) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.56, 2004年8月)
- Les Trésors du Musée Sankôkan (28) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.57, 2004年11月)
- Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (29) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.58, 2005年2月)
- Les Trésors du Musée Sankôkan (29) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.59, 2005年5月)
- Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (30) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No.60, 2005年8月)

奥 純

- いつかマリエンバートで (関西大学『文学論集』第54巻第3号, 2005年1月)
- マリエンバート vs マリエンバート (関西大学『文学論集』第55巻第2号, 2005年10月)

柏木 治

- パスクワーレ・M・デリア著『中国キリスト教美術の起源 (1583年~1640年)』
〔I〕 (*Le Origini dell'arte cristiana cinese (1583-1640)*) (翻訳, 『或問』第8号, 近代東西言語文化接触研究会, 2004年10月)
- 色彩の魔力 —— 文化史・美学・心理学的アプローチ (共著, 明石書店, 2005年4月)
- F D活動の展開 —— 全学共通教育推進機構の取り組み (『大学時報』第302号,

日本私立大学連盟, 2005年5月)

神垣享介

- ・アルベール・カミュ作『戒厳令』について —三つのマスクを中心に— (天理大学『学報』第210輯, 2005年10月)
- ・ヨーロッパ学・アメリカ学への招待(1)「スカーフ事件」に寄せて (奈良新聞, 2005年6月)

川神傳弘

- ・『汚れた手』と『奇妙な戦争のメモ』のはざま (『仏語 仏文学』第31号, 2004年2月)

笹倉塩子

- ・Les contacts entre la France et la Chine au XVIII^e siècle — Le Père Benoist — (『仏語 仏文学』第31号, 2004年2月)

武本雅嗣

- ・井口容子(2003)『フランス語構文の分析』(『フランス語学研究』第39号日本フランス語学会, 駿河台出版社, 2005年6月)
- ・『21世紀後半の世界の言語はどうなるのか —情報化・国際化のなかの言語—』(明石書店(編者兼用語解説執筆者の1人として)2005年9月)
- ・与格の選択について(日本フランス語学会シンポジウム「与格とは何か」(パネリストとして) 於立教大学, 2005年5月)
- ・動詞 donner の多義性をめぐって(日本フランス語フランス文学会口頭発表, 於立教大学, 2005年5月)

友谷知己

- ・« La qualification double dans la tragédie racinienne : le cas de Pyrrhus » (*Etudes de langue et littérature françaises*, No 84, mars 2004)
- ・« Les extravagances amoureuses dans *Andromaque* » (関西大学『文学論集』第54巻第4号, 2005年3月)
- ・フェルナン・ブローデル『ブローデル歴史集成 II 歴史学の野心』(共訳, 藤原書店, 2005年4月)

- ・パスカル・ペリノー「二〇〇四年EU議会選挙におけるヨーロッパ懐疑主義の伸長について」(共訳, 関西大学『法学論集』第55巻第1号, 2005年6月)

内藤義博

- ・フランス・オペラ研究のために(りべるたすの会『りべるたす』第18号, 2004年12月)

平田重和

- ・カミュの戯曲『正義の人々』*Les Justes* 再読(関西大学『文学論集』第53巻第3号, 2004年1月)
- ・カミュの戯曲『誤解』と『戒厳令』(関西大学『文学論集』第54巻第3号, 2005年1月)
- ・カミュの戯曲『正義の人々』*Les Justes* 再読(関西大学フランス語フランス文学会口頭発表, 2003年12月)

堀 潤之

- ・「データベース映画」をめぐって——ニュー・メディア時代のゴダール(『関西大学文学論集』第55巻第2号, 2005年10月)
- ・‘Godard’s Two Historiographies’, in Michael Temple, James Williams, Michael Witt (eds), *For Ever Godard* (London: Black Dog Publishing, 2004.7)
- ・ジャック・ランシエール『美学的無意識』(Jacques Rancière, *L’inconscient esthétique* の翻訳)(『みすず』みすず書房516号, 2004年5月号)
- ・‘La Géo-politique de l’image dans les *Histoire(s) du cinéma* de Jean-Luc Godard’, in *European Studies*, Vol. 3, DESK (Deutschland- und Europastudien in Komaba), 2004.3 (『ヨーロッパ研究』, 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部ドイツ・ヨーロッパ研究室(DES K))
- ・『時間の闇の中で』解説(『10ミニッツ・オールダー 公式読本』, エスクァイアマガジン ジャパン, 2003年11月)
- ・救済の歴史叙述——ゴダールの『アワーミュージック』をめぐって(日本映画学会第1回大会, 於京都大学, 2005年12月)
- ・ゴダールと歴史のモンタージュ(表象文化論学会設立準備大会, 於東京大学, 2005年11月)
- ・ジュリアン・デュヴィヴィエ『商船テナシチー』解説(第12回大阪ヨーロッパ映

画祭, 於大阪WTCホール, 2005年11月)

- 二つの時代の間ゴダール (日本英文学会第77回大会シンポジウム第三部門「感覚・モダニズム・テクノロジー」, 於日本大学文理学部, 2005年5月)
- テオ・アンゲロプロス——歴史・神話・政治 (《世界の中心からのメッセージ——現代ギリシャの映画をみる》, 於慶應義塾大学アート・センター, 2004年12月)
- 「データベース映画」をめぐって (パネル・ディスカッション《映像メディアの美学の在り処——実践と理論から》, 於インターコミュニケーション・センター, 2003年12月)

修士論文題目

2004年3月

- | | |
|-------|---|
| 西岡 恵理 | マルキ・ド・サド研究—社会的, 文化的基盤に立脚して— |
| 東山 隆志 | ゾラ『ジェルミナール』における Histoire の諸相 |
| 田中 洋二 | フランス20世紀作家Jean Giono “ <i>trilogie de Pan</i> ” における自然観 |

2005年3月

- | | |
|-------|---------------------------|
| 渋谷 直樹 | ヴォルテールの初期思想—演劇作品を中心に— |
| 間野 照世 | 『パスカル博士』の特異性—ゾラにおける死滅と再生— |